

(第3種郵便物認可)

独自技術で廃水ゼロ

SDGs 最前線

金沢市のヨシダ印刷は環境に配慮し、水を使わず、紫外線(UV)をインキに当てて瞬間的に乾かす印刷機「水なしエコUV印刷機」を二〇一二年に独自に開発し、日本で初めて導入した。水も空気も汚さないという印刷機は、業界ではまだ主流ではない。しかし、SDGsの機運が高まる近年は他社からの注目が集まっている。

昨年から、取引先や業界内でもSDGsを耳にする機会が増えた。調べてみると「新しい社会に貢献する」という社是に合致することが分かった。目標ごとに事業を当てはめて再整理をした。その中心となるのが「水なしエコUV」の活用だ。

従来の印刷では、水と油が反発し合う現象を利用し、版面を水でぬらすことでインキがつかない場所をつくって印刷していた。そのため、水には溶剤やごみが混ざり、環境への影響が課題となっていた。

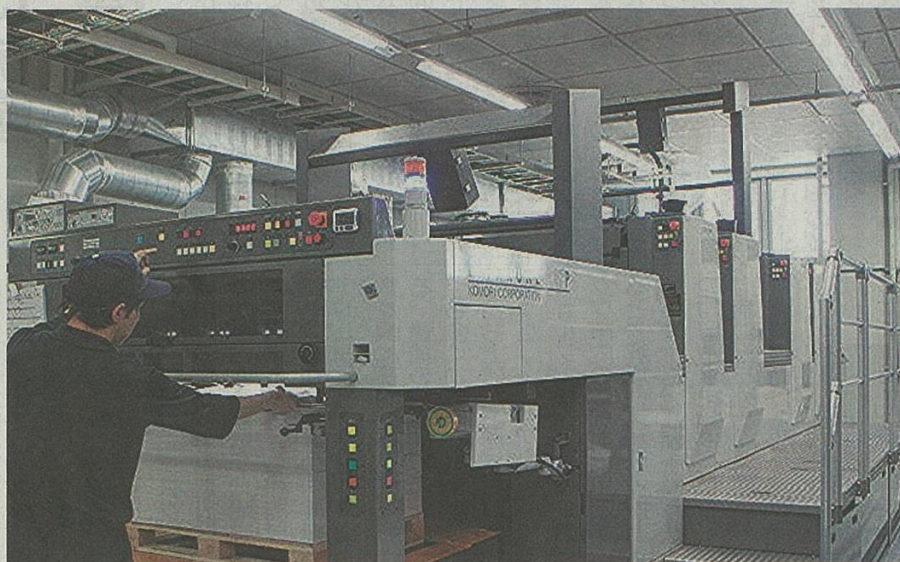
初めから環境に配慮しようと考え、開発したわけではない。「水を

制する者が印刷を制すると言われた時代があったんです」。経営企画課の宮本明課長(四)は言う。その見極めるには、経験値がものをい

持続可能な開発目標(SDGs) 2015年9月の国連サミットで採択され、30年までの達成を目指す国際目標。「誰一人取り残さない」という理念のもと、貧困や飢餓の撲滅、環境保全、気候変動への対応、男女平等の実現など17の分野別目標と169の具体的達成基準を掲げる。SDGsはSustainable Development Goalsの略。

広告など印刷

ヨシダ印刷 (金沢市)



日本で初めて導入した「水なしエコUV印刷機」は水も空気も汚さないというヨシダ印刷のヨシダ印刷で

最重点目標

12 つくる責任
つかう責任



会社メモ 1906(明治39)年に「吉田軍用堂」として創業。68年に現在のヨシダ印刷に社名変更した。グループには包装資材を取り扱う「ヨシダ洋紙」と、情報通信技

術(ICT)を活用したコンサルティングを行う「YP BizImprove(ワイピービズインプローブ)」がある。グループ従業員は2019年6月時点で207人。本社は金沢市御影町。

「これでは職人が育ちにくいというので、水を使わない印刷機を開発を始めた」と宮本さんは振り返る。同社はインキをはじく性質を持つシリコンに注目。版面の表にシリコンを塗り、文字となる部分をレーザーで削ることで凹部のみインキが流れるようにした。こうすると凹凸が生き、水を使わずに印刷ができる。さらに、紫外線を用いて速乾性を向上させることで、生産性の高い印刷機となった。廃液を出さない印刷は分野別目標⑫「つくる責任 つかう責任」に合致する。国際的には水を使った印刷が主流。紙材に限られ、技術もあるからだ。そのため、水なしですべての印刷をするのを目指した他社からは驚かれることも多い。「ヨシダ印刷イコール環境に優しい印刷というのは周知されてきた」と宮本さん。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を踏まえ、今後は高齢者や色覚障害がある人にも見やすいユニバーサルデザイン(UD)フォントを導入し、用途や対象者に合わせて読みやすい印刷物を目指していく。(蓮野亜耶)

「これは職人が育ちにくいというので、水を使わない印刷機を開発を始めた」と宮本さんは振り返る。同社はインキをはじく性質を持つシリコンに注目。版面の表にシリコンを塗り、文字となる部分をレーザーで削ることで凹部のみインキが流れるようにした。こうすると凹凸が生き、水を使わずに印刷ができる。さらに、紫外線を用いて速乾性を向上させることで、生産性の高い印刷機となった。廃液を出さない印刷は分野別目標⑫「つくる責任 つかう責任」に合致する。国際的には水を使った印刷が主流。紙材に限られ、技術もあるからだ。そのため、水なしですべての印刷をするのを目指した他社からは驚かれることも多い。「ヨシダ印刷イコール環境に優しい印刷というのは周知されてきた」と宮本さん。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を踏まえ、今後は高齢者や色覚障害がある人にも見やすいユニバーサルデザイン(UD)フォントを導入し、用途や対象者に合わせて読みやすい印刷物を目指していく。(蓮野亜耶)